三者共同プレスリリース　　2026 年 11 月 16 日 公表

楓ウェルビーイングデザイン株式会社　　株式会社日本能率協会総合研究所　　株式会社 PKSHA Technology

自治体の介護予防・介護保険事業ご担当者 各位　報道関係者 各位

高齢者の再自立と介護給付費の抑制を目指す、新たな介護予防モデル（リエイブルメント型）を開発

専門職の支援を高度化する対話型 AI アプリを 3 社共同で開発、自治体への提供を目指す

シェルハナ

3 か月の集中支援で、買い物や家事を再び自分の力で営める暮らしへ。
高齢者の再自立と介護給付費の抑制を目指す、リエイブルメント型介護予防。
25 年の実践知と先進的な知見を結集した対話型 AI アプリが、専門職を支えます。

シェルハナは、楓ウェルビーイングデザイン株式会社、株式会社日本能率協会総合研究所（JMAR）、株式会社 PKSHA Technology の 3 社が共同開発する、リエイブルメント型介護予防サービス運営支援アプリです。2026 年 11 月から寝屋川市・山口市・防府市の計 4 事業所で検証導入し、2027 年春の全国の自治体への提供を目指します。

要介護認定者の再自立と介護給付費の抑制を自治体の施策に

リエイブルメントは、本人が望む暮らしを再び自分で営めるようにする支援です。改善が見込まれる要支援認定者等に原則 3 か月、専門職の面談と自宅での実践を組み合わせ、活動・参加とセルフマネジメントの力を高めます。

再自立を通じて要介護化・重度化を防ぎ、将来の介護給付費の抑制を目指します。未導入自治体での新設と、既存の通所型サービス C からリエイブルメント型への見直し、入れ替えを提案します。

一般的な短期集中通所 C とリエイブルメント型のちがい

比較項目	一般的な短期集中通所 C 教室型（集団型）	リエイブルメント型 個別型
支援の中心	筋力トレーニングやマシン運動、 栄養・口腔等の講座が中心	個別面談とセルフマネジメント支援が中心。 ICF の視点で心身機能・活動・参加に働きかけ、 自宅での実践を確認・助言し、社会参加へつなぐ
利用開始	年 2〜4 回程度のターム制。 教室開始のタイミングで利用	随時利用
対象者の選定	保健師等が対象者を抽出・振り分け、 ハイリスク者に参加を勧奨	新規認定者・事業対象者のうち、 通所サービスの利用希望者を原則対象とする

※主な実施例を整理した比較です。実施内容や対象者は自治体により異なります。

先行自治体におけるリエイブルメント型介護予防サービスの成果

寝屋川市｜元の生活へ

49.5%

通所C利用者384人中190人 [1]

防府市｜自分らしい暮らしへ

61.3%

約260人の利用者／2021年1月〜2022年9月 [2]

防府市｜予防給付＋総合事業費 [3]

約8,140万円減（12.6%減）



要介護1認定率：4.9%→4.5%（2018→2022年度）

※いずれも本アプリ導入前の既存事業の公表実績です。指標・対象期間は自治体で異なります。認定率の変化との因果関係や、費用減少に対するコロナ禍の影響は検証・分析されていません。

リエイブルメント型の構造的課題と AI による支援

専門職の面談に高度なスキルが必要。約 20 分で一週間の生活状況と小さな変化、暮らしぶりを捉え、対話を通じて本人の意欲とセルフマネジメント能力の習慣化を支える力が求められますが、大変高度な援助技術が要されます。そのような課題をシェルハナが支援、専門職のスキル不足を補い、効果的なリエイブルメントを支えます。

専門職面談　→　自宅で AI と日々対話　→　要約・推奨話題を集約、提案　→　次回面談

楓の風 25 年の自立支援ケアと先進的な実践知を結集

シェルハナには、楓の風が 25 年間、ICF（国際生活機能分類）を指向して全国の通所事業所で培った自立支援ケアの実践知を取り入れています。心身機能だけでなく、活動・参加、本人の価値観や生活環境を捉え、自分らしい暮らしを支える知見です。そこに国内の先進的なリエイブルメントの実践知、JMAR の自治体支援の知見を掛け合わせ、PKSHA の音声対話 AI 技術で実装。専門職の経験差を補い、鍵となる熟練者の動機づけ面談技術の再現を目指します。

1 日約 5 分の対話が専門職の面談を深める

シェルハナに、利用者が自宅で日々の取り組みや困りごとを声で話すと、AI が週次のセルフマネジメントシートと対話要約を作成。専門職に、暮らしの様子と面談で確かめたい問い・話題を提示します。

専門職は約 20 分の面談を、本人の意欲を引き出し、次の行動を一緒に考えるために活用できます。経験の浅い職員も熟練者の視点を手がかりに支援でき、面談記録の自動生成まで一貫して通所 C の運営を支えます。

AI の提示情報や記録は専門職が確認、支援内容を判断します。面談支援機能は**特許出願中**です。

自治体が導入し指定運営アプリとして実施事業所へ提供

シェルハナを自治体が導入し、通所型サービス C の実施事業所へ指定運営アプリとして提供します。サービス設計・専門職研修と組み合わせ、介護予防の実施体制づくりを支援します。新設・見直しの段階からご相談ください。

シェルハナとリエイブルメント型介護予防サービスの同時導入を、2027 年度の介護予防施策としてご検討ください。提供開始予定は 2027 年春です。主な対象は通所型サービス C（訪問型にも応用可能）です。

シェルハナは、目標に寄り添う伴走者「シェルパ」と「はなす」に由来します。

導入相談と取材のお問い合わせ

楓ウェルビーイングデザイン株式会社　https://kaede-wellbeing.com/contact/

株式会社日本能率協会総合研究所（JMAR）　https://www.jmar.co.jp/contact/

リエイブルメント型介護予防の実践動画・参考資料　https://www.jmar.co.jp/job/public/llg.html

※シェルハナは開発・検証中で、掲載機能には開発予定の内容を含みます。3 か月・1 日約 5 分は目安です。本アプリによる再自立支援・介護給付費抑制の効果は、今後検証します。

出典

[1] 医療経済研究機構（2024 年 3 月）「地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた市町村の地域デザイン力を高める組織構築に関する調査研究事業報告書」参考資料 寝屋川市発表資料 スライド 6（PDF100 ページ）。https://www.ihep.jp/wp-content/uploads/22327.pdf#page=100

[2] 厚生労働省掲載「いつまでも自分らしい生活をあきらめないで」3 ページ。資料提供は防府市高齢福祉課地域包括ケア係。 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001102071.pdf#page=3

[3] 国際長寿センター／医療経済研究機構（2023 年）「リエイブルメント導入マニュアル」冊子 10〜11 ページ（PDF9〜10 ページ）。 https://www.ilcjapan.org/study/doc/2022/b_2022_1/all.pdf#page=9

＜発信者＞

楓ウェルビーイングデザイン株式会社

代表取締役　小室貴之

神奈川県横浜市中区尾上町３－３ 5 LIST EAST BLD.4F

https://kaede-wellbeing.com/contact/